



校訓 「夢を持って歩み続ける」

陽光

令和7年1月10日 第20号 文責 梶原 圭一



2025年のスタートに当たり

新年 あけまして おめでとうございます。2025年も本校の教育活動に対して、ご理解並びにご協力をよろしくお願い申し上げます。

2週間ほどの冬休みが終わり、学校に子どもたちの元気な声が戻ってきました。後期前半が終了する前は、インフルエンザ流行により多くの子が欠席していましたので、冬休み中の子どもたちの体調を心配していました。また、交通事故や大きなケガがないことを祈っていました。すべての学級の様子を見て回りながら、子どもたちが元気に登校してくれたことを、うれしく感じています。

2025年のスタートに当たり、子どもたちに校訓の話をしました。本校には、「夢を持って歩み続ける」という素晴らしい校訓があります。夢や目標を持つ大切さについては、これまで何度か話をしてきました。「〇〇になりたい」「〇〇ができるようになりたい」と夢を持つと同時に、その夢に向かってコツコツと努力することに価値があります。その努力した経験こそが、子どもたちが大人に成長したときに役立つものとなるでしょう。そのことを教えてくれているのが、校訓の中にある「歩み続ける」ではないかと感じています。中部小の子どもたちには、夢に向かって努力し続けてほしいと願っています。ちなみに、私が本年に目指す目標は、「決めたことは最後までやり抜く」と子どもたちにも紹介しました。

生徒指導担当から、安心・安全な学校にするために「学校のきまりを守ろう」という話がありました。学校のきまりを守ることは、「人に迷惑をかけない」「みんなが気持ちよく過ごす」ことにつながるということを、具体的な例を挙げながら説明しました。その中に、「靴のかかとを揃えて入れる」もあります。中部小の伝統を守り続けていくためにも、全校児童で頑張っていきたいと思います。

世界に目を向けて！

1月10日(金)に、二殿教育長が6年生の子どもたちに向けて、国際理解に関する講話を行われました。ご自身が南アフリカ共和国のヨハネスブルグ日本人学校で3年間校長として勤務されており、その中で経験したことや生活・文化の違いなどについて、子どもたちに分かりやすく紹介していただきました。

バスジャックに備えた避難訓練や電流が流れているエレクトリックフェンスを写真で示し、安全面の違いについて説明があり、子どもたちも驚いていました。また、その日の食べ物にも困っている子との出会いや絵本の読み聞かせを行いながら、おなかいっぱい食べられることの幸せについて教えていただきました。さらに、今も残る人種差別の爪痕を見せられ、差別のない、誰もが幸せに暮らせる世界は、私たち一人一人が創っていかねばならないことを訴えられました。世界に目を向ける授業を通して、子どもたちは新たな視野を得ることができたことと思います。このような機会を作っていただいた二殿教育長に心から感謝申し上げます。

<後期後半の主な行事>

2月27日(木) 授業参観・学級懇談会
3月7日(金) お別れ遠足

3月21日(金) 卒業証書授与式
3月24日(月) 修了式(1～5年生)

中部小の校訓(こうくん)は、何でしたか？

夢を持って 歩み続ける
努力

